

# 公共交通の活性化によるコンパクトシティの実現

## —まちを創る公共交通—

### 1. なぜ、コンパクトシティを目指すのか

#### (1) コンパクトシティとは

生活に必要な諸機能が近接した効率的で持続可能な都市

#### (2) コンパクトシティが求められる背景

モータリゼーションの進展で都市が郊外に拡大したことにより、自家用車に過度に依存しなければならない都市構造となっています。

そのことにより、「中心市街地の衰退」「公共施設の維持管理経費の増加」「自動車を運転しない人は日常生活がしにくくなった」などの様々な問題が発生し、多くの人が暮らしやすいコンパクトなまちづくりが求められています。

#### (3) コンパクトシティを実現するための視点

コンパクトシティは新しく「まち」を創り出すというものではなく、今ある「まち」を多くの人が暮らしやすいまちに創り変えていく試みです。コンパクトシティの実現のためには様々な施策・手法を用いる必要がありますが、この研修では、その中の重要な手法のひとつである「公共交通の活性化」に着目し研究をおこないました。

### 2. 公共交通の現状

#### (1) 大都市では・・・

モータリゼーションの進展により、自動車による移動が増加している影響を受け、乗合バス事業は衰退しています。自動車に比べ定時性・大量輸送性に優れる鉄道は、通勤や通学などの多様な場面で利用されています。

#### (2) 地方都市では・・・

大都市よりも自動車移動の増加の影響を受けています。地方都市では大量輸送を前提とした鉄道の整備が進んでおらず、また、ローカル線の廃止などの影響で、代替交通として乗合バス事業の役割が大きくなっています。

しかしながら、地域によりサービス水準がまちまちで全体的に利用しにくい現状があり、自動車の運転をしない人以外から選択される移動手段にはなっていません。

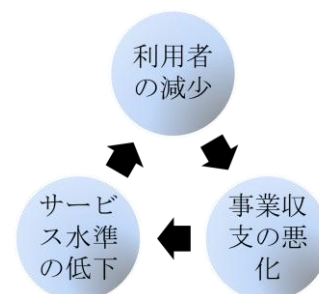
### 3. 公共交通を取り巻く課題

#### (1) 利用者の減少に起因する「悪循環」

利用者の減少が事業者の収支の悪化を招き、これにより減便や廃止などで、サービス水準が低下し、さらなる利用者の減少につながっていくという悪循環を招いており、その解消が必要となっています。

#### (2) 役割の変化への対応

交通事業者だけで公共交通を守っていくのは困難になっており、「事業者」「行政」「利用者」が連携しそれぞれの役割を担っていくことが必要となっています。



# 政策の方向性

## 4. 公共交通における自治体の役割

### (1) まちづくりと公共交通を一体化して進めていくことが重要

生活拠点にアクセスしやすい公共交通の整備をし、利用者の減少による公共交通サービス水準の低下、悪循環を解消することが重要と考えます。

### (2) 行政が中心となり事業者・利用者それぞれの役割を確認

事業者・行政・利用者の連携により、それぞれのまちのニーズにあった持続可能な公共交通の整備が必要と考えます。

## 5. 理想とする公共交通政策

### (1) 自治体における体制づくり

まちづくりの誘導と公共交通の活性化のために、自治体における公共交通専門部署の体制を強化し、公共交通の取り組みに積極的に行うことが目標です。

### (2) 交通計画の策定

自治体を中心となって交通計画の策定に関わり、行政と事業者との役割分担を図ることが目標です。

### (3) 利用しやすい公共交通

持続可能な公共交通を目指し、わかりやすく利用しやすい環境に整えることが目標です。

## そのために私達は3つの政策を提言します

### 提言1 体制の強化

- 公共交通専門部署の設置と専門家の育成
- 自治体と民間事業者が対等な立場で連携していくために、行政や事業者が自由に議題を提案できるような会議の設置
- 周辺自治体との調整と広域での連携による取り組み

### 提言2 計画の策定

- 自治体と事業者との役割分担の明確化
- 利用者ニーズの把握と求められる公共交通の在り方の検討
- 交通計画の策定による地域の実情に即した安定したサービスの提供

### 提言3 見える化

- 利用者からの見える化
  - ・検索システムの整備
  - ・公共交通利用手引きの作成
  - ・バスの乗り方教室
  - ・利用促進キャンペーンの実施
- 事業者からの見える化
  - ・データ収集システムを用いた運行ダイヤの最適化を図る